

【試合結果】

男子							
日時	平成30年4月14日（土） 14:20 ~						
会場	千歳スポーツセンター						
結果	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="text-align:center; width:50%;"> <b>札幌啓明</b> 道1位 ●                 </td> <td style="font-size:3em; vertical-align:middle;">}</td> <td style="text-align:center; width:50%;"> <b>浜松開誠館</b> 静岡 ○                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align:center; font-size:2em;">57</td> <td></td> <td style="text-align:center; font-size:2em;">73</td> </tr> </table>	<b>札幌啓明</b> 道1位 ●	}	<b>浜松開誠館</b> 静岡 ○	57		73
	<b>札幌啓明</b> 道1位 ●	}	<b>浜松開誠館</b> 静岡 ○				
57		73					
審判	主審 山内 正隆      副審 小林 晋      川田 佑一						

第11回北海道カップ中学生バスケットボール大会



【ボックススコア】

札幌啓明		道1位						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	大山 榛也	×	5	0	2	1	1	3
5	星賀 舞也	×	21	1	9	0	11	3
6	山本 健太	DNP						
7	西野 歩	/	0	0	0	0	0	1
8	高村 英汰	×	11	2	2	1	0	2
9	加藤 琉聖	/	0	0	0	0	0	0
10	木村 陽太	×	13	1	5	0	5	2
11	泉山 蒼	×	0	0	0	0	0	1
12	梅原 光生	DNP						
13	寺崎 友寿	DNP						
14	村田 晴飛	/	7	0	3	1	0	2
15	酒井 颯太	/	0	0	0	0	0	1
16	西川 壮太	DNP						
17	板橋 虎風	DNP						
18	星野 龍生	DNP						
HC	永野 進							
合計			57	4	21	3	17	15

浜松開誠館		静岡						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	渥美 優楓	×	22	0	9	4	6	0
5	須和部 陸	×	13	0	5	3	1	1
6	杉浦 捷太	×	12	0	6	0	9	1
7	海野 来晟	/	4	1	0	1	2	1
8	米津 陸	×	5	1	0	2	0	1
9	平本 大也	/	17	1	3	8	6	2
10	山本 勲和	/	0	0	0	0	2	1
11	鈴木 楓大	DNP						
12	上杉 亮雅	DNP						
13		DNP						
14		DNP						
15		DNP						
16		DNP						
17		DNP						
18		DNP						
HC	尾藤 博己							
合計			73	3	23	18	26	7

出場 ×:スターター      /:途中出場      DNP:出場なし  
 得点 3P:3ポイントシュート    2P:2ポイントシュート    FT:フリースロー

【戦評】

北海道1位の啓明中と静岡県浜松開誠館中の対戦。  
 1Q、啓明の積極的なオフェンスで主導権を握る。開誠館は粘り強いDFで対抗して締まったゲームとなる。お互いに機動力があるが、チャンスを得点にした啓明がリードする展開となる。開誠館は果敢にゴールに向かい追い上げ、残り30秒で平本の3Pが決まり、逆転した開誠館が16-14とリードして1Qを終える。  
 2Q、DFの運動量を上げてきた開誠館がリードを広げる。啓明も星賀を中心に食い下がるが、激しいDFの前になかなか得点繋がらない時間が続く。しかし、啓明が相手のターンオーバーから連続得点で追い上げる。激しい攻防の中で、お互いに得点を入れ合う展開の中、チャンスを実に得点した開誠館が33-25とリードして前半を終了した。  
 3Q、開始早々、トラップからボールを奪い主導権を握る開成館がリードを広げる。3分後、チームをけん引していた啓明の大山が負傷してコートから離れる状況になる。そんな状況の中、激しいDFから一気にリードを広げる開成館はさらに手を緩めない。大山がコートに戻ると啓明も本来の動きとなるが、終始自分たちのペースでプレーしていた開成館54-41とさらにリードを広げて3Qを終える。  
 4Q、体の強さを生かしゴールに攻める開成館に対して、切り替えの早さで対抗する啓明は一進一退が続く。サイズではやや劣る開成館ではあったが、リバウンドを支配して流れに乗る。残り時間3分となり、啓明も木村、高村の得点で必死に追い上げる。しかし、安定した試合運びで常に先手を取り攻め気を緩めない開成館が73-57で勝利する。